

能登半島地震からの復興を目指してICTを活用したコミュニティづくり

能登半島地震復興支援プロジェクト（北陸地方本部）

（１）活動の動機

令和6年1月1日発生の能登半島発生に伴い、BHNテレコム支援協議会（NTTグループ支援のNPO）から、平成28年4月発生の熊本地震と同様に、被災地の仮設住宅の集会所にICT環境（無線ルーター、パソコン、プリンター）を設置するボランティアの要請がありました。能登半島の地震の悲惨さを目の当たりにしており、北陸電友会石川県支部としてNTT北陸支店のアシストを得てプロジェクトを結成し支援することにしました。

石川県支部長の川田宗光をリーダーとして、活動に参加可能な電友会会員の姉崎幸雄、坂下武吉、荒川修司、中川敏弘の4名成で結成しました。



輪島市の倒壊5Fビル倒壊



（２）主な活動内容

まずは、①ICT環境設置について4市4町で約170ヶ所に亘る仮設団地の中から行政と相談し10ヶ所に設置しました。その後の追加要請で現在は14ヶ所になっています。パソコンなどの機器はBHN本部、什器類は一部NTT北陸支店から譲渡していただきました。



集会所設置のICT機器



周知用ポスター

その中で②設置当初からプリンターを利用した資料コピーの需要が高く利用者から大いに感謝されました。公費解体などの申請書類作成に有用であったようで、A4用紙・プリンター用インクが不足しないよう十分に準備しました。

③当地は、通信設備の被災もあり仮設団地集会所へのWi-Fiルーター設置も大変喜ばれました。

④家屋が被災し固定電話を失っていることから携帯電話が連絡手段として必須となり、その中で、高齢者対象のスマホ講座はその背景からニーズが強く長期に亘って継続開催しています。

行政からも、仮設団地内ひきこもり対策にもなることから後押しがありました。シニアがわかりやすいように基本的なことを繰り返しての講座内容としました。



スマホ講座模様



PR用ポスター



171（災害用伝言ダイヤル）



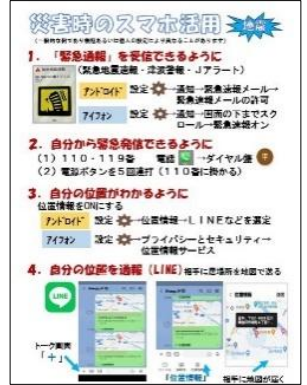
スマホ講座後の軽体操

スマホ講座は、継続的開催の要望が強くNTT北陸支店の協力も得ながら、毎月2～3回の周期で各地を巡回しています。昨年度は22回、今年度は半期で12回実施しました。講座内では、災害時のスマホ利用も入れ、更に171（災害用伝言ダイヤル）周知も行なっています。

また、講座最後のYouTube利用の軽体操も皆さん喜んでくれてます。

⑤更にパソコンの会議用アプリを使って被災地間でのネット接続をして情報交流の手助けをしております。

⑥地震・水害の悲惨な状況を多くの方に知って貰うために被災状況説明会を現地で開催するとともにネット配信も行なっています。



被災状況説明会



ネット交流会



被災者・NTT北陸
BHNメンバー



NTT西日本・特別表彰

(3) 苦労したこと

現地までの距離が片道約150Kmもあり、車で3時間程度かかります。更に道路が被災しているので運転も慎重さを求められます。このことからスマホ講座の需要が強いなかで訪問回数も限定的にせざるを得なくなっています。A4用紙・プリンター用インクの不足を起こさないよう現地には十分な量を置くようにしています。



プロジェクトメンバー

(4) 感想・今後に向けて

能登半島地震復興支援に寄り沿うコミュニティづくりとして、ICT環境の維持、スマホ講座・ネット交流会開催を継続し、被災された方々の生活再建を応援していきます。

この活動の陰には、これまでの経験とノウハウを活かした「BHN広島事務所長福田卓夫氏による広域災害後方支援活動」がありました。この後方からの支援が、今回の活動の原動力となりました。

（文責 姉崎幸雄）